

特集：企業内診断士・孤軍奮闘記2

序章

企業内診断士，それぞれの道



高島 稔

埼玉県中小企業診断協会

2016年11月に特集「企業内診断士・孤軍奮闘記」執筆の機会をいただいた。社内に中小企業診断士の資格をもつ仲間がいない中で、試行錯誤している新人診断士の奮闘記をお伝えしたところ、大きな反響をいただいた。

その声の多くは、「自身の今後のキャリアに、中小企業診断士の資格をどう活かしてよいかわからない」と感じていらっしゃる中小企業にお勤めの企業内診断士の方たちからであった。

本特集は、その第2弾として、さらなるケーススタディとしてお役立ていただくために、新たに4名の企業内診断士の奮闘記をお送りする。

今回は、合格直後の中小企業診断士のみではなく、合格後2～3年目の企業内診断士も参加し、次の表のようなさまざまな切り口から事例を紹介する。前回の特集後にいただいた声の中でも、特に要望の多かった切り口に近いケースを用意した。

第1章 ・中小企業からベンチャー企業への転職

第2章 ・社外も見据えたキャリア形成に活かす

第3章 ・家業を支えるために資格を活かす

第4章 ・地域性の高いビジネスに活用する

また、特集の後半では、新たな取組みとして、「将来の家業の企業経営に、中小企業診断士の資格をどう活かしていこうと考えているか」、「マネジメント職としての中小企業診断士の資格の活用法」について、実際に現在進行形で取り組んでいる執筆メンバーの対談をお送りする。

今回の4人の事例には、現在、中小企業にお勤めである中小企業診断士の方たちが「明日から使える」ヒントが散りばめられているはずだ。本特集が、読者の皆様のビジネスやキャリア形成の一助となれば幸いである。



本特集の執筆陣。左から高島稔氏、藤本了甫氏、岸則行氏、溝上愛氏、渡邊大輔氏

高島 稔

(たかしま みのる)

日本大学卒業後、商社、メーカーに勤務。商品開発や営業部門を担当する。2016年中小企業診断士登録後、独立。現在、商品企画を軸にした経営戦略策定支援や、地方創生をテーマに特産品開発の支援を行っている。

